

會 務 報 告

第 25 卷 第 1 號 昭和 14 年 1 月

役 員 會

第 21 同理事會 (昭. 13. 11. 21.)

出席者： 辰馬會長，新井，堀越副會長，金子，高橋，
岡田，樫木，川口各理事，中村書記長，小野
寺庶務主任，朝倉會計主任，糸川編輯主任

報 告

1. 西部支部幹事門澤利三君の後任に細川英二郎君就任せり。
2. 東北支部商議員高田廣君の後任に佐藤東次郎君就任せり。
3. 東北支部第 6, 7 回役員會議事を報告せり。

議 事

1. 東北支部内規第 3 條中より「重任することを得ず」を削除することとせり。
2. 本會昭和 13 年度更正豫算を別紙(省略)の通り承認することとせり。
3. 東北支部昭和 14 年度豫算を別紙(省略)の通り承認することとせり。
4. 中部支部昭和 14 年度豫算を別紙(省略)の通り承認することとせり。
5. 關西支部昭和 14 年度豫算を別紙(省略)の通り承認することとせり。
6. 定款及規則改正に關する委員會設置に就ては會長に一任することとせり。
7. 中華民國臨時政府建設總署長殷同氏歡迎茶話會を東京會館に於て開催し併せて記念品を贈呈することとせり。
8. 入退會の件 別紙の通り承認せり。

第 10 同常議員會 (昭. 13. 11. 21.)

出席者： 辰馬會長，新井，堀越兩副會長，阿會沼，青木，伊藤，海老，岡田，金子，樫木，川口，高橋(嘉)，高橋(三)，中村各常議員，青山前會長，北澤，君島，島崎，鶴見各支部長，中村書記長，小野寺庶務主任，朝倉會計主任，糸川編輯主任

報 告

1. 西部支部幹事門澤利三君の後任に細川英二郎君就任せり。
2. 東北支部商議員高田廣君の後任に佐藤東次郎君

就任せり。

3. 北海道支部幹事に酒井忠明君新に就任せり。
4. 西部支部商議員佐藤忠三郎君の後任に大木利彦君就任せり。
5. 東北支部第 6, 7 回役員會議事を報告せり。
6. 入退會の件別紙の通り承認せり。

議 事

1. 中部支部管内入會者に對する入會金免除取扱を 11 月末まで延長することとせり。
2. 昭. 13. 11. 22. 支部長會議を東京に於て開催することとせり。
3. 本會昭和 13 年度更正豫算を別紙(省略)の通り承認せり。
4. 東北支部昭和 13 年度更正豫算を別紙(省略)の通り承認せり。
5. 東北支部昭和 14 年度豫算を別紙(省略)の通り承認せり。
6. 中部支部昭和 14 年度豫算を別紙(省略)の通り承認せり。
7. 關西支部昭和 14 年度豫算を別紙(省略)の通り承認せり。
8. 中華民國臨時政府建設總署長殷同氏歡迎茶話會を東京會館に於て開催し併せて記念品を贈呈することとせり。

第 22 同理事會 (昭. 13. 12. 5.)

出席者： 辰馬會長，新井，堀越兩副會長，金子，山崎，樫木各理事，青木文化映畫委員長，中村書記長，小野寺庶務主任，朝倉會計主任，糸川編輯主任

報 告

1. 日本工學會社員總會及評議員會議事を報告せり。
2. 中部支部第 3 回役員會議事を報告せり。
3. 中部支部評議員杉山 榮君死亡及柳ヶ瀬正哉君転勤に伴ふ後任に小林紫朗君，中原壽一郎君就任し幹事に大西英弉君追任せり。
4. 金子理事より工政會主催の新東亞建設工業協議會(假名)に於ける協議事項を報告せり。

議 事

1. 北海道支部昭和 14 年度收支豫算別紙(省略)の

通り承認することとせり。

2. 日本工学会申出の第4回工学会大会開催に就ての原案に対しては意見なき旨回答することとせり。
3. 名古屋帝國大学内に土木工学科設置の申請は建議の形式に依ることとせり。
4. 構造士法案は委員会決定原案の通りとし議會に提出の時期及方法を委員会に諮問することとせり。
5. 請負工事標準契約書は委員会原案の通りとし之を印刷に附し各關係方面に配布することとせり。
6. 西部支部昭和14年度收支豫算別紙(省略)の通り承認することとせり。
7. 土木映畫応募脚本審査の経過及結果に就て青木委員長より説明あり下記脚本に對し賞金及賞品を贈呈することとせり。

2等 1篇, 賞金 30 円外賞品 (15 円程度)

「流れに沿ひて」 作者 能勢亞夷

佳作 5 篇, 賞品 (1 篇 15 円程度)

「高 穂 川」 作者 牧 俊作

「建 設」 作者 桂 和久

「土木工事に輝く日本」 作者 杉浦伊作

「進 展」 作者 田中十郎

「若い土木屋」 作者 森本誠一

以上の外の応募脚本に對しても總額 30 円程度にて記念品を贈呈することとせり。

8. 昭和 14 年 2 月開催の通常總會に滿洲國土木技術官の講演を依頼することとし平井出交通部次長並に直木技監宛 1 名乃至 2 名の技術官派遣方を懇請することとせり。

總 務 部 記 事

第 21 回土木学会文化映畫委員会 (昭. 13. 10. 11.)

出席者: 青木委員長, 五十嵐, 横田, 片平各委員, 小出君 (藝術映畫社)

藝術映畫社の利根川に關する映畫企畫案に就て協議し, 資料の蒐集を援助することとす。

第 22 回土木学会文化映畫委員会 (昭. 13. 11. 14.)

出席者: 青木委員長, 瀧尾, 金子, 五十嵐, 横田, 片平各委員

1. 西部支部發會式に於ける本委員会推薦の下山氏天然色映畫は非常に好評を博せる由委員長より報告あり。
2. 土木映畫資料応募シナリオ 10 月末日の締切間

際に集まつたもの次の如し。

「建設」「曙」「東洋平和」「勝鬨の歌」

3. 青木委員長北支へ出張中は瀧尾委員が委員長を代理することとせり。

4. 応募シナリオの讀合せをなせり。

5. 明年度本委員会豫算に就き協議せり。

第 23 回土木学会文化映畫委員会 (昭. 13. 11. 17.)

出席者: 青木委員長, 瀧尾, 廣田, 金子, 五十嵐, 横田, 片平各委員

1. 応募シナリオ 12 編の合同審査を行ふ。
2. 優秀シナリオの再審査及批評を小委員会に委任す。
3. 本委員会主催の映畫會開催に就き打合せを行ふ。

第 24 回土木学会文化映畫委員会小委員会

(昭. 13. 11. 26~27.)

出席者: 金子, 五十嵐, 横田, 片平各委員

1. 応募優秀シナリオの再審査及批評を作製す。

編 輯 部 記 事

第 12 回會誌編輯委員会 (昭. 13. 12. 7.)

出席者: 山崎委員長, 伊藤 (剛), 太田尾, 風間, 黒澤, 立花, 富山, 野口, 廣瀬, 安宅各委員, 糸川編輯囑託協議事項

1. 第 24 卷第 12 號所載原稿の謝禮を決定す。
2. 第 25 卷第 1 號に左記を追加す。

彙報: 昭和 13 年阪神水害對策調査委員会報告 (土木学会關西支部)

3. 第 25 卷第 2 號登載記事を下記の如く決定す。

論說報告: 花崗岩地帯の砂防植物に就て (准, 猶原恭爾), 上水道に於ける殺菌方法に就て (會, 工博, 島崎孝彦), 橋梁トラスの 2 次応力實用算式に就て (會, 酒井忠明), 彈性係数一樣ならざる棒の振り (會, 最上武雄), 函館市の復興事業に就て (會, 神尾守次)

抄録: 球塔及三角塔に關する空氣力学, 不靜定構造物に於ける曲げモーメントの測定, 掃流力と流砂量に關する研究, Zuyder Zee (和蘭) の干拓, 土壤の化学的凝固防水法, 熔接用電極棒の研究, 貯水土堰堤の破壊, モルタルにて表装せる鋼管, 鋼管のコールタールエナメル防護塗裝, Great Lakes の淨化, 防空室の天井厚計算法, 2 連繫拱橋の平衡突桁式架設, 最近の木造構造による木材並に鉄の節約, 突桁式鉸拱の一例。

調 査 部 記 事

第 1 回關西及關東地方水害調査委員会主査會 (昭 13. 11. 25.)

出席者： 眞田委員長，鈴木副委員長，阿曾沼 副委員長
代理岡部，河口，佐藤，春藤，高橋代理，沖鹽
代理岡部各主査，辰馬會長，金子總務部長，中
村書記長，小野寺庶務主任

1. 本日までまでに到着せる水害調査報告書は各部門別に整理し主査に廻附し未到着分に對しては至急報告方督促することとせり。

2. 埼玉縣水害に關しては構作物以外の一般被害に就ても報告せらるゝ様依頼することとせり。

3. 理事會諮問に係る關西支部内に設置の阪神水害對策調査委員会報告別冊(省略)は土木學會誌に登載支障なきものと認め答申することとせり。

4. 阪神に於ける水害調査報告の内容説明のため 28 日近藤委員上京の通知ありたり，依て眞田委員長及中村書記長に於て之を聴取し委員会に報告することとせり。

コンクリート示方書調査委員会幹事會 (昭. 13. 12. 1.)

出席者： 内山，松村，金子各幹事，一木保夫，糸川編輯主任

調査事項

1. 故野坂幹事の擔當部分に關する本會鉄筋コンクリート標準示方書及解説改訂案に就き検討を行ひ，尙二，三の事項については引き続き調査を爲すこととせり。
2. 上記調査事項は少くも本年中(昭和 13 年)に成案を作製し，第 2 議會として委員会に附する豫定なり。

第 10 回用語調査常置委員会 (昭. 13. 12. 2.)

出席者： 中川委員長，小宅(代理)，島野，松尾，菊池，野口，町田，板倉各委員，糸川幹事

議 事

1. 糸川幹事より前回委員会(昭. 12. 10. 11.)以後の用語調査に關する進捗報告あり。

2. 調査用のカードの總數及其の内譯は次の如し。

委員提出カード數	23 563
囑 託	31 000
總 數	54 563

上記のカードは「用語配列方針改正要項」に基き之を整理せる結果約 24 000 枚となれり。

3. 審議を要すべき用語 22 語に付き検討を爲し，

各々決定せり。

4. 今回の「英和工学辭典」の改訂に際して用語中に「土木工学用語集」に変更を要すべきものありたる場合には更に委員会を開催の上決定すべきこと。

5. 「英和工学辭典」に關しては一先づ用語の成案を得たるを以つて今年内に印刷に付し得る如く進むること。

關 西 支 部 記 事

各種委員會の開催

1. 土木事業計畫審査委員会第 4 回橋梁部會 (昭. 13. 10. 29.)
2. 同 第 3 回河川部會 (昭. 13. 11. 10.)
3. 同 第 5 回橋梁部會 (昭. 13. 11. 19.)

中 部 支 部 記 事

第 3 回役員會 (昭. 13. 10. 31)

出席者： 北澤支部長，奥田，金古，山口，鈴木，永田各評議員，塚本幹事長，松戸，今泉，船木各幹事

議 事

1. 昭和 14 年度豫算の件
2. 名古屋大学に土木工学科設置に關する件
3. 昭和 14 年定期總會開催地の件
4. 本年度事業に關する件
5. 役員補缺選舉の件

第 2 回年次學術講演會記事

學術講演會全般の準備概況 土木學會第 2 回年次學術講演會は昨年 7 月 16 日(土)及 17 日(日)札幌市北海道帝國大学に於て開催された。之より先き 3 月 21 日の常議員會に於ては第 2 回年次學術講演會を 7 月頃札幌市に於て開催することに申合せを行ひ，開催地北海道支部の同意を得て，遂に 7 月中旬開催の事に決定した。當時の北海道支部は昨年 10 月の發起人會にて成立したりとは云へ，創立後日尚淺く，支部會員約 480 名の大多數は支部の存在及意義を知るに暗く又開催期日迄の時日の切迫の關係上會員多數の協力を必要とし，事實上大會の遂行に就て不安少なからず其の円満なる進行は危まれる情況であつた。依て 3 月 9 日の第 1 回役員會に於て，

- (1) 講演會期日を 7 月 16 日(土)及 17 日(日)とすること
- (2) 講演會の場所を北海道帝國大学構内とすること
- (3) 論文提出者及講演者の勧誘を至急行ふこと
- (4) 北海道支部の發會式を 4 月に行ふこと
- (5) 見学旅行は第 1 班樺太方面(約 8 日間), 第 2 班層雲峽—阿寒湖方面(約 4 日間), 第 3 班苫小牧—登別—室蘭方面(約 2 日間)の 3 班とし, 其の具体案は後日精細に調査すること
- (6) 所要経費は専ら本部よりの補助金にて支出すること
- (7) 準備委員の編成は
- (イ) 庶務, 會計係 吉町太郎一, 古藤猛哉
林 猛雄, 小川讓二
- (ロ) 講演係 井口鹿象, 大坪喜久太郎
- (ハ) 發會式係 酒井忠明, 眞井耕象
板倉忠三
- (ニ) 見学係 北海道廳及札幌鉄道局の會員
- (ホ) 宿泊係 中より撰定

依て最も早急を要する論文提出者及び講演者の募集を行ふと共に, 支部發會式を急速且つ盛大に行ふ事と成り, 發會式は早春 4 月 23 日(土)及 24 日(日)北海道帝國大学に於て盛大に舉行された(土木學會誌第 24 卷第 6 號(昭和 18 年 6 月號), 50~57 頁参照)。

準備の進行従て事務の擴大と共に北海道帝國大学土木教室, 札幌鉄道局, 北海道廳, 樺太廳, 札幌小樽兩市役所の會員は準備委員會を組織し, 支部長より下記の諸君を委員に委嘱した。

會長: 辰馬鎌藏

支部長: 吉町太郎一

幹事長: 鷹部屋福平

幹事: 大坪喜久太郎 林 猛雄 眞井耕象

小川讓二 酒井忠明 板倉忠三

庶務, 會計委員:

吉町太郎一 古藤猛哉 鷹部屋福平 林 猛雄

眞井耕象 板倉忠三 武田要吉 神保金衛

小川讓二 渡邊榮五郎 松木憲司 菊地 清

梶山常治 瀬田一雄 岡本増成

講演委員: 倉塚良夫 小川敬次郎 小野諒兄

井口鹿象 大坪喜久太郎 酒井忠明 神山 博

佐伯利吉 小林幸治 森田健造 平尾俊雄

倉島一夫 高橋敏五郎 平松吉二 笠谷 孝

接待委員: 齋藤靜脩 高橋勝衛 野田道也

横田 清 下鳥正夫 黒崎貞治 樋口保三郎
岡崎達二 菅 良二

見学委員: 杉森文彦 永井雄毅 皆川 久

小川 勝 町田利臣 小崎弘郎 叶 磯

大西朝男 田中彦敏 鹽塚重藏 池田一男

土谷 實 高田善藏 安藝眞孝 梶山下里

野村多津雄 寺田春二 中矢隆雄 吉野徳一郎

大谷新太郎 武田利雄 林 士郎 坂部勝夫

渡邊市太郎 佐藤隆治 宗石盛始 細江直矢

高橋 端 稻積豊二 高田金十郎 阿部 光

白木左都夫 花里 馨 本間昌吉 小關芳三

彦田吉充 福岡 蔚 奈良部龜松 草野虎一

宿泊委員: 調所武光 仁木信恭 篠原節郎

斯くして之等の準備委員は發會式終了後屢々會合を重ねて協議し萬般の準備に當つた。大体に於て庶務, 會計は支部所在地たる土木教室常任役員間にて行ひ, 講演關係は土木教室にて之に當り, 見学, 接待及宿泊關係は北海道廳及び札幌鉄道局にて分擔し, 又別に土木教室助教授より成る幹事會を組織し, 各準備委員會間の連絡, 原案作製及計畫機關たらしめた。各幹事の分擔は下記の如くである。

庶務部 林 猛雄, 板倉忠三, 酒井忠明

會計部 (幹事長) 鷹部屋福平, 小川讓二

講演部 大坪喜久太郎, 酒井忠明

接待部 眞井耕象, 酒井忠明

懇親會部

見学部 林 猛雄, 板倉忠三

會員に對する案内は可及的に會誌を利用し, 第 24 卷第 4 號(昭和 18 年 4 月號)に於て論文募集を, 同じく第 6 號に講演會プログラムの大要及講演題目を會告として掲載し, 最後に詳細なる講演會案内を本部より全會員に發送した。本講演會の準備中最も困難を感じたる理由は, (1) 準備期間の極めて短き爲充分協議の餘裕なきこと, (2) 見学旅行は京都大會の場合に比し規模大にして, 特に樺太旅行の如き大旅行を計畫したること, (3) 大會期日が丁度北海道, 樺太の遊覽季節に當り, 旅館其の他の準備に困難したること, (4) 支那事變の影響, (5) 關西阪風水害の影響等の諸種の原因に依り, 準備委員の努力にも拘はらず意に充たざるものも少くなかつた。然し各部の準備委員の熱誠なる努力に依り土木工学の發達に資し, 特に社會に對し土木事業の存在を意識せしめた功は没す可くもなく, 又大會所在地たる北海道は各權威の來道により拓

殖上幾多の便宜を得たるものと思はれる。最後に各部に於ける準備委員会の数を示せば

商 議 員 會	1 回
準 備 委 員 會	3 回
幹 事 會	8 回
庶務會計委員會	2 回
接待部委員會	1 回
見学部委員會	2 回
宿泊部委員會	1 回
講演部委員會	1 回

以上の如くである。

講演會の準備概況 前述の如く講演會開催時は諸種の事情より、7月16日(土)及17日(日)と決定せられ、講演時間は論文提出者及講演者の數、會場の數に依り最初より決定し得られないが、昨年京都講演會の例を參照して16日(土)は午前及午後共講演とし、17日(日)は午前講演、午後札幌、小樽附近見学とし、18日(月)以後を各地見学旅行に當てる事とした。

論文募集は3月中旬約300、各各方面に對し土木學會第2回年次學術講演委員會の名を以て提出方を依頼し、尙第24卷(昭和13年)第4號會誌に會告として掲載し、會誌表紙に赤字見出しを附け一般の注意を促した。

本講演會の講演要旨は昨年の京都大會に於けるが如く長大且つ詳細なるものを避け一編昨年の約三分の一程度に縮少し、又講演本文は別に講演集を發行せず、原則として全部會誌に掲載する事とした。之に依て提出せられたる論文は締切期日切迫のため遅れ勝ちも漸次増して其の數83に達し、講演委員の豫想と略合致し、豫定の如く會場を3ヶ所に決定した。6月上旬要旨印刷に着手し、7月初旬完成を見るに至つた。著者各位より提出せられたる論文要旨は上記注意書に依られ度き旨再三懇請したるに拘はらず、図表過量のもの或は簡に過ぐるものあり、又は印刷不能の図表あり、講演委員は其の取扱ひに甚だ困惑し、結局原文の意味を尊重し可及的に長短不揃の要旨を編纂するを餘儀なくされた。唯關西風水害のため論文提出後講演不能の旨通知されたる數氏があつた事は遺憾至極であつた。

學術講演會の日程 大會の日程は次の如くであつた。
7月15日(金)

ラジオ放送 午後6時25分～6時55分 JOIK

7月16日(土)

開 會 式	午前8時～8時30分	北海道帝國大 工学部講堂
講 演	午前8時35分～午後4時	
晚 餐 會	午後6時～9時	札幌グランドホテル

7月17日(日)

講 演	午前8時～11時50分	北海道帝國大学工学部講堂
札幌、小樽見学	午後1時～5時	

A 班 札幌市内

B 班 札幌市郊外

C 班 小樽市

各地見学旅行

第1班 7月17～24日 8日間

樺太地方 解散地大泊 費用100円

第2班 7月18～20日 3日間

層雲峽、阿寒方面 解散地釧路 費用27円

第3班 7月18～19日 2日間

室蘭方面 解散地室蘭 費用11円

大會第1日(7月16日)學術講演概況 學術講演會第1日(7月16日)は絶好の日本晴れで、大学正試前及大学病院正門前に掲げたる大會立看板は恰も土木界の權威を招くが如く、又土木工学の威勢を社會に表徴するが如くであつた。來會者は工学部正門入口受付にて氏名登録の後諸印刷物を受取り、午前8時より開會式、學術講演(午前及午後)、懇親會の順序に行はれた。

(1)開會式(午前8時～8時30分)43名の來會者は工学部講堂に集合、午前8時開會、土木學會北海道支部長吉町太郎博士の開會の辭に引続き、一同

圖-1 土木學會第2回年次學術講演會場入口
(北海道帝國大学)



図-2. 講演會々場 (北海道帝國大学工学部)



起立し國歌合唱し、聖戰に従事する將士に感謝の意を表し且つ大日本帝國の發展を祈り、次いで關西風水害のため御出席不可能と成りし會長辰馬鎌藏氏の代理と

して編輯部長東大教授山崎匡輔氏が會長講演“黃河と治水”に就て其の蘊蓄を傾け、午前8時30分此の記念すべき大會の發會式を終る(會長講演に就ては會誌昭和13年第9號935~938頁參照)。

(2) 學術講演 開會式を終り小憩の後、午前8時35分より前記講演プログラムに示す如く3會場に分れ次の如き學術講演が行はれた。會場の都合上其の收容力に差あり第1會場は約400名、第2及第3會場は各100名であつたが、各會場共100名内外の出席者を得、殊に第2會場の如き20各位は席無く立続くる如き盛況であつた。出席者は皆熱心且つ靜謐に聴講し、講演も豫定の通り進行をした。

次に各會場に於ける講演者及講演題目を示す。

第 1 會 場 (○印は連名論文提出者中の講演者)

開會の辭	北海道支部長	會・工博	吉町太郎一君	開始時刻
會長講演(黃河と治水)	會 長	會・工	辰馬鎌藏君	前 8.15
A-1 平板に小凹形孔が開いてゐる穴に異なる物質が詰つてゐるときの凹孔附近の応力分布	逓信省水力課	准・工	谷本勉之助君	8.35
A-2 函型ラーメンの一解法(彈性支承上にあつて任意の對稱垂直荷重を受ける場合)	鐵道省大阪改良事務所	准・工	柴田元良君	8.55
A-3 骨組抗压柱の斜材の作用に就て	東京市河川課	會・工	安宅勝君	9.15
A-4 軸圧と横圧とを受ける長柱の撓み並に軌條の浮上り挫屈に就て	九州帝大	會・工博	稻田隆君	9.35
A-5 一土圧公式とその図式解法	九州帝大	會・工博	安藏善之輔君	9.55
A-6 周縁に於ける分布圧力と剪断力との合成作用による固定矩形板の挫屈荷重に就て	北海道帝大	會・工博	井口鹿象君	10.15
A-7 平行鋸蓄電方法による応力計に就て	北海道帝大 同	會・工博 會・工	小野諒兄君 ○板倉忠三君	10.35
A-8 溢流堰上の水深に就て	仙臺高工	會	今野彦貞君	10.55
A-9 水路勾配変り目附近の流体運動に就て	北海道帝大	會・工	大坪喜久太郎君	11.15
A-10 水門の流出狀況に關する實驗的研究	内務省土木試験所	准・工	横田周平君	11.35
休 憩 1時間5分(晝食)				
A-11 変断面長柱2,3の挫屈荷重	内務省土木局	會・工	樋浦大三君	後 1.00
A-11 彈性係數一様ならざる棒の振り	東京帝大	會・工	最上武雄君	1.25
B-1 航空写真測量の質績に就て	鐵道省東京建設事務所	會・工	渡邊寛治君	1.45

B-2	等変速度に適應する全緩和曲線	神戸高工	會・工	江藤禮君	2.00
B-3	航空寫眞測量に於ける畫面の重複度に就て	北海道帝大	會・工	林猛雄君	2.20
B-4	愛知縣に於ける道路改良計畫	愛知縣廳土木部	會・工	山口十一郎君	3.00
B-5	佐賀國道に於けるコンクリート舗裝	内務省佐賀國道改良事務所	會・工	大野博君	3.10
B-6	防空上より觀たる都市計畫	京都帝大	會・工	武居高四郎君	3.20
B-7	函館市の復興事業に就て	北海道廳都市計畫課	會・工	神尾守次君	3.40
B-8	人口の一つの現象の解析(戰鬪の原理を應用せる假想年齢構成曲線の諸性質)	福岡縣廳都市計畫課	准・工	森重一夫君	4.00

第 2 會 場

C-1	セメント糊中の水分と圧縮強度	九州帝大	准・工	篠原謹爾君	前 8.40
C-2	新京濱國道多摩川架橋地點の水質試験と耐鹼性市販セメントに就て	内務省雄物川改修事務所	准・工	福島彌六君	9.00
C-3	コンクリート内部振動機使用時に於ける振動の波及状態に就て	鐵道省大臣官房研究所	會・工	内山實君	9.20
C-4	墜撃式コンクリート填充法による鉄筋コンクリート柱の實驗成績(第2報)	北海道帝大	會・工	眞井耕象君	9.40
C-5	コンクリートの收縮によりて起きる内部反力に就て	北海道帝大	會・工博	小川敬次郎君	10.00
C-6	鉄筋の電気熔接々手に關する實驗的研究	内務省土木試験所	會・工	青木楠男君	10.20
C-7	北滿に於ける橋梁下部構造の寒中施工に就て	滿鐵牡丹江建設事務所	准・工	松本光夫君	10.40
C-8	女川線北上川橋梁井筒沈下工事に就て	鐵道省盛岡建設事務所	准	林英祐君	11.00
C-9	碎石砂利生産施設の一例に就て	東京鐵道局		庄子吉光君	11.20
C-10	無騒音杭打方法に就て	北海道帝大	會・工博	小野諒兄君	11.40

休 憩 1 時間 5 分 (晝食)

C-11	今福線 45km 200m 下府附近砂丘切取工事に就て	鐵道省米子建設事務所	准	岡野幸三郎君	後 1.00
C-12	木次線 45km 200m 附近切取崩壊復舊工事に就て	鐵道省信濃川電氣事務所	會・工	藤田峻五君	1.20
C-13	豊橋線第5工區土工直轄工事に就て	鐵道省熱海建設事務所	准・工	河野康雄君	1.40
C-14	大阪市内地盤沈下及対策	大阪市土木部	會・工	福留並喜君	2.00
D-1	彈性比に依らざる鉄筋コンクリート計算式と實驗	京都帝大建築科	會・工博	棚橋諒君	2.20
D-2	鉄筋コンクリート桁断面に於ける中立軸の位置決定に關する實驗(中間報告)	京都帝大	會・工	高橋逸夫君	2.40

D-3	廣範圍の偏心荷重を受ける鉄筋コンクリート矩形断面鉄筋量決定法	神 戸 高 工	會・工	武 田 英 吉 君	3.00
D-4	鉄筋コンクリート桁の實地計算上の若干の問題	朝鮮總督府内務局 土 木 課	會	元 泰 常 君	3.20

第 3 會 場

G-10	埋立に依る大阪の海岸線移動に就て (第1報)	鐵道省大阪改良事務所	會	坂元左馬太君	前 8.40
G-11	熱海々面埋立工事に就て	熱海埋立株式會社	會	原 田 碧 君	9.00
G-12	堤防の經濟的高さ或は經濟的川幅に就て	朝鮮總督府内務局 土 木 課	會	元 泰 常 君	9.20
G-13	軟弱地盤の上に築設せる防波堤の基礎捨石間に鉄網を敷設せる實績	大阪北港株式會社	會・工	林 千 秋 君	9.40
G-14	上水道に於ける殺菌方法に就て	大 阪 市 水 道 部	會・工博	島 崎 孝 彦 君	10.00
G-15	緩速濾過池に使用せる「ポーラスコンクリートスラブ」の性能特長及之が濾過池築造費に及ぼす影響	京 都 市 水 道 局	會	鈴木銀次郎君	10.20
G-16	下水流量計としてのベンチュリーフリームに就て	熊 本 高 工	會・工	北 澤 貞 吉 君	10.40
F-1	乗降場の配列及中間小停車場の3型式に就て	北 海 道 帝 大	會・工	古 藤 猛 哉 君	11.00
F-2	建設線中間停車場設備に就て	鐵道省建設局計畫課	會・工	土 本 基 君	11.20
F-3	機械聯動裝置挺子減力機に就て	東 京 鐵 道 局	准・工	大 槻 勝 雄 君	11.40

休 憩 1 時間 5 分 (晝食)

F-4	天王寺驛改良工事に就て	鐵道省大阪改良事務所	准	福 森 宇 三 郎 君	後 1.00
F-5	新大里驛の配線に就て	鐵 道 省 工 務 局	會・工	立 花 次 郎 君	1.20
F-6	函館驛の現況と將來に對する考察	札 幌 鐵 道 局	會・工	江 藤 智 君	1.40
F-8	軌條接目遊間に就て	廣 島 鐵 道 局	准・工	小 野 一 良 君	2.00
F-9	軌道材料の電蝕状態に就て	鐵 道 省 工 務 局	會・工	山 田 二 三 男 君	2.20
F-10	アプト式軌道の保守に就て	札 幌 鐵 道 局	會・工	武 田 利 雄 君	2.40
F-11	諸外國に於ける施藥枕木の機械的處理に就て	鐵道省工務局保線課	會・工	兒 島 重 次 郎 君	3.00
F-12	線路の凍上と保守に就て	札 幌 鐵 道 局	會・工	坂 部 勝 夫 君	3.20

懇親會 (午後 6 時~8 時 40 分) 第 1 日の 学術講演に引続き、午後 6 時より會員懇親會を札幌グランドホテルにて開催致したる處、會員 120 名の御出席を得、専門を同じくする會として甚だ賑はしく開會せられ

た。

開宴後暫くして漸く會員同志打寛く頃を見計ひ、山崎會長代理先づ起ち主催者側を代表して挨拶を行ひ、次いで來賓を代表して北海道廳長官右黃英彦氏起ち、

土木專業の本道拓殖に如何に關係深きかを述べ、北海道の開發は諸君の御援助なくしては不可能なる所以を力説し、土木學會の隆盛を祈る旨述べられた。

テーブルスピーチに入り、吉町支部長の指名に依り次の諸氏より有益且興味ある御談しを伺ふを得た。

先づ土木學會關西支部を代表して大阪市土木部長福留並喜氏より、次に西部支部を代表して九州帝國大學教授の稻田隆氏、中部支部を代表して同支部長杉山榮氏、東京本部直轄區域を代表して東京灣埋築會社の

中村廉次氏、最後に出席者中の最長老元鐵道技師遠藤藤吉氏の名晉頭にて土木學會の萬歳を三唱し、會員同志は充分の歡を盡して午後 8 時 40 分解散した。更に多數の會員の中には今夜の懇親會の機會を利用し、更に他の特殊の懇親會を催したのも少くなかつた様である。

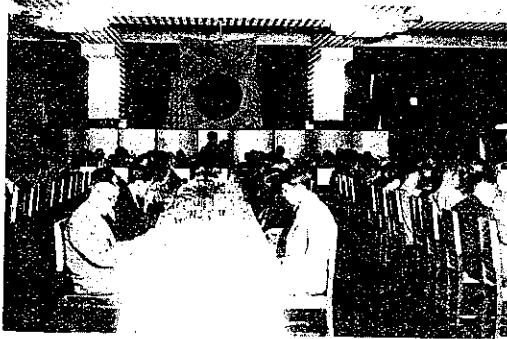
大會第 2 日 (7 月 17 日) 學術講演並に見学概況

學術講演會第 2 日 (7 月 17 日) も前日同様天候に恵まれ、會員同志は前日に比し餘程打寬いだ氣分が溢れて居る。午前 8 時より學術講演 (午前)、札幌小樽地方見学 (午後)、北海道廳、市役所共同招待園遊會の順序に行はれ、特に見学旅行第 1 班 (樺太地方) は今夕 7 時 50 分の汽車にて札幌驛を出發した。

(1) 學術講演 (午前 8 時~12 時) 前日の如く引続き 3 會場に分れ學術講演を行ふ。今日は午後見学を行ふため及公務多忙のため講演終了後直に退札する諸君ある關係上、會場の混雜及出席者の減少を危ぶまれたが、事實は豫想に反し極めて靜肅に且つ聴講者も昨日と大差なき好結果に終つた。

次に各會場に於ける講演者及講演題目を示す。

圖-3. 懇親會場 (グランドホテル)



第 I 會 場

G-1	鐵道省信濃川千手發電所水圧鉄管に就て	鐵道省信濃川 電氣事務所	准・工	北村市太郎君	前 8.00
G-2	發電用貯水池計畫に於て考慮すべき諸條件	鬼怒川水力電氣 株式會社	會・工	松田全弘君	8.20
G-3	雨龍川水力發電工事計畫概要	雨龍電力株式會社	會・工	松野辰治君	8.40
G-4	砂防堰堤の下流洗掘に關する一實驗	内務省 富士川改修事務所 内務省土木試験所	會・工 會・工	安藝皎一君 横田周平君	9.00
G-5	聖臺貯水池土堰堤工事に就て	北海道廳 帶廣治水事務所	會・工	岩岡武博君	9.20
G-6	雄物川新川の通水に就て	内務省 雄物川改修事務所	會・工	野瀬正人君	9.40
G-7	木曾川河水統制の必要	愛知縣廳土木部	會・工	山口十一郎君	10.00
G-8	華北に於ける水利上の諸問題に就て	南滿洲工業専門學校	會・工	淺野好君	10.20
G-9	河川合流點の處置に關する一考察	内務省 富士川改修事務所	會・工	安藝皎一君	10.45
G-17	河道に設けたる貯水池の河川水理に及ぼす影響	内務省土木局	會・工	伊藤剛君	10.05
G-18	用水量決定に關する一考察	内務省土木局	會・工	矢野勝正君	11.30

第 2 會 場

E-1	桁橋応力軽減法	日 本 大 学	會・工	成 瀬 勝 正 君	前 8.00
E-2	橋梁トラスの2次応力實用算式に就て	北 海 道 帝 大	會・工	酒 井 忠 明 君	8.20
E-3	二鉸桁橋の応力計算に就て	名 古 屋 高 工	會・工	北 澤 忠 男 君	8.40
E-4	鉄道橋としての長径間鉄筋コンクリート拱の設計に就て	鉄道省建設局工事課	准・工	岩 永 義 美 君	9.00
E-5	川口線第一只見川橋梁架設計畫に就て	鉄道省東京建設事務所	准・工 准・工	大 石 重 成 君 ○宮 澤 吉 弘 君	9.20
E-6	施工中の十勝川河西橋架換工事に就て	北 海 道 廳 北 帯 廣 治 水 事 務 所	會・工	横 道 英 雄 君	9.40
E-7	鉄筋コンクリート跨線橋への一提案	内 務 省 小 矢 部 川 改 修 事 務 所	會・工	中 島 武 君	10.00

第 3 會 場

F-13	鉄道線路内の工事に応用したる深礎工法に就て	東 京 鉄 道 局	准・工	酒 井 立 夫 君	前 8.00
F-14	今坂線仙山線に應用せる防雪施設に就て	鉄 道 省 秋 田 建 設 事 務 所	准	藤 本 小 大 郎 君	8.20
F-15	新潟鉄道局管内に於ける雪害対策に就て	新 潟 鉄 道 局	會・工	松 下 幹 雄 君	8.40
F-16	降雪地に於ける線路切換幅員に就て	鉄 道 省 工 務 局	會・工	岡 部 二 郎 君	9.00
F-17	北海道の主要産物の動きに就て	札 幌 鉄 道 局	准・工	福 田 治 次 君	9.20
F-18	新潟を中心とする貨物輸送状況と各種改良計畫	新 潟 鉄 道 局	會・工	佐 藤 慶 次 君	9.40
F-19	最近に於ける北海道の石炭事情と港湾施設に就て	鉄 道 省 工 務 局	會・工	田 中 茂 美 君	10.00
F-20	北海道に於ける鉄道の建設に就て	鉄 道 省 北 海 道 建 設 事 務 所	會・工	中 矢 隆 雄 君	10.20
F-21	大糸線真那板山隧道直轄工事に就て	鉄道省長岡建設事務所	准・工	小 田 仁 君	10.40
F-22	八幡濱線夜臺隧道工事に就て	鉄道省山口建設事務所	會・工	小 田 金 治 君	11.00

(2) 札幌小樽附近見学(午後1時~5時) 見学地をA, B, Cの3班に分ち、午後招待園遊會迄の時間を利用して行はれた。其内A班は申込最多数にして95名であつたが、当日缺席者及他班に変更者あり、結局70名出席し、生ビールの饗応をうけた。B班は道内の會員に多く、特に此の班は天候と乗物の關係に左右され勝ちであるが、天候に恵れ乗物はバスガールの説明付きであつた。道外よりの會員はC班に多く、簡単に札幌に隣接する海港小樽市の近代施設を見学出来るので好評であり、最初50名の申込みに對し、見学者は70名以上であつた。

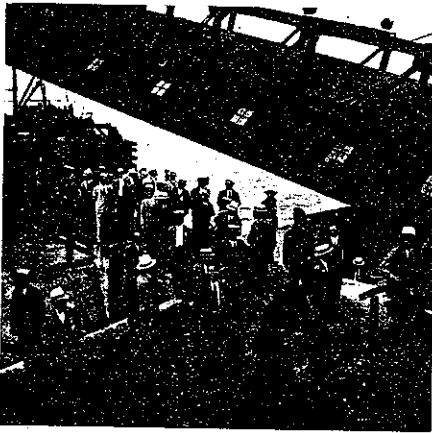
圖-4. 札幌見学 A 班
(札幌ビル會社工場)



図-5. 札幌見学 B 班 (真駒内種畜場)



図-6. 札幌見学 C 班 (小樽港)



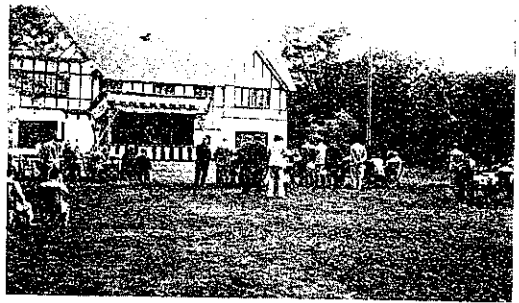
(3) 北海道廳、札幌市長招待園遊會(午後 5 時 30 分～7 時)札幌小樽見学終了後午後 5 時 30 分より緑の芝生美しい市内屈指の名園たる三井俱樂部庭園内に於て北海道廳長官及札幌市長招待にかゝる歓迎園遊會が開催せられ、好天氣の下に午後の見学に軽き疲労を覺えた會員の大多數は庭園の芝生の間に設けられた席に三々五々腰を下した。

先づ札幌市長三澤寛一氏起て歓迎の辭を述べれば、山崎會長代理會員を代表して謝辭を述べ、やがて開宴の辭と共に十數ヶ所に設けられた模擬店は一齊に超滿員の盛況を呈した。盛夏の候とは云へ北海の地にて而も更に夕刻の涼味は會員に何よりの御馳走と成り、本場の札幌ビールのサービスと共に忘れ得ぬものであつた。酒、ビールに酔ひを感じ、オデン、團子、壽司等に滿腹する頃中央の舞臺にては長唄、追分節、紅燕情話等の餘興が札幌見学番連中に依て唄はれ、大いに北海情緒に浸ることが出來た。

暮色漸く追る午後時會員は充分歡を盡して、札幌の地を深く心に刻み解散した。唯見学旅行第 1 班参加者

のみは園遊會場より直ちに札幌停車場へ向つた。

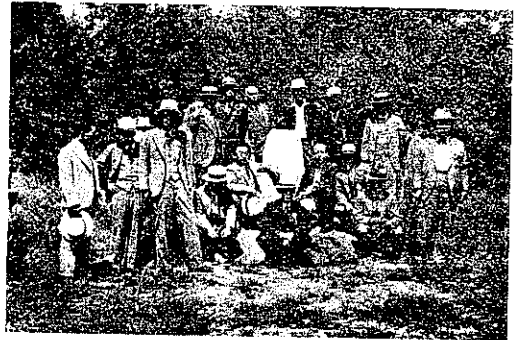
図-7. 北海道廳長官、札幌市長招待園遊會場 (三井クラブ)



6. 各地見学旅行概況

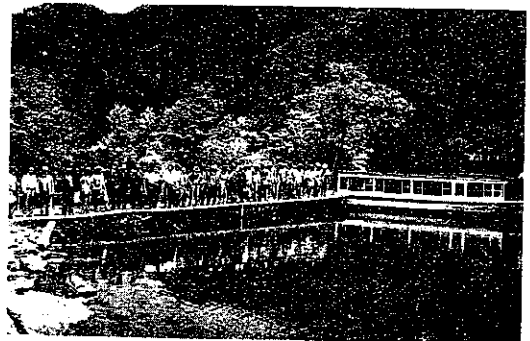
(1) 第 1 班 樺太地方 7 月 17 日～7 月 24 日
参加會員 20 名 (記事参省略)

図-8. 地方見学第 1 班 (樺太半田澤園境)



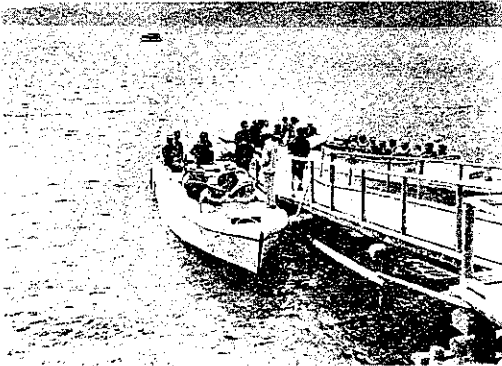
(2) 第 2 班 層雲峽阿寒方面 (7 月 18～20 日, 3 日間) 参加會員 40 名, 他に現地委員 20 名 (記事省略)。

図-9. 地方見学第 2 班 (阿寒湖畔)



(3) 第 3 班 室蘭方面 (7 月 18～19 日, 2 日間) 参加會員 46 名 (記事省略)。

圖-10. 地方見学第3班 (支笏湖畔)



土木學會第 2 同年次學術講演會決算報告

収入之部	
収入總額	6 965.50
内 訳	
本部交附金	1 200.00
諸 會 費	3 935.50
寄 附 金	1 780.00
支出之部	
支出總額	6 317.91
内 訳	
庶務會計係支出	554.62
講演係支出	647.12
見学係支出	4 317.42
接待係支出	759.50
宿泊係支出	39.25
手傳人謝禮	36.00
差引殘高	647.64

殷同氏歡迎茶話會

(昭 13, 12, 22)

出席者: 殷同君, 辰馬會長, 新井, 堀越兩副會長, 金子, 高橋, 岡田, 梶木, 川口各理事, 岡曾沼, 海老, 伊藤, 松田各常議員, 岡野, 名井, 眞田, 久保田, 大河内各前會長, 鶴見 (東北), 吉町 (北海道), 北澤 (中部), 君島 (西部), 島崎 (關西) 各支部長, 鷹部屋 (北海道), 塚本 (中部) 兩幹事長, 福西 (西部支部幹事長代理), 菊田 (東北), 山本 (關西) 支部主事, 鈴木雅次君, 島野貞三君, 安藝杏一君, 坂本丹治君, 遠藤貞一。

君, 中村書記長, 小野寺庶務主任, 朝倉會計主任, 糸川編輯主任,

中華民國臨時政府建設總署長殷同氏が日滿支經濟懇談會出席のため來朝せられたるを機會に午後 4 時より東京會館に於て歡迎茶話會を開催, 席上辰馬會長より歡迎の挨拶あり, 殷同氏より流暢な日本語で北支建設に關する抱負の一端を述べ, 一同和かな交歓裡に午後 6 時散會した。

第 1 回支部長會議

(昭 13. 11. 22)

會 場: 丸之内會館
 出席者: 辰馬會長, 新井, 堀越副會長, 金子, 高橋, 岡田, 梶木, 川口各理事
 吉町 (北海道), 鶴見 (東北), 北澤 (中部), 島崎 (關西), 君島 (西部) 各支部長
 鷹部屋 (北海道), 塚本 (中部) 兩幹事長
 福西 (西部) 幹事長代理, 菊田 (東北), 山本 (關西) 兩主事, 中村書記長, 小野寺庶務主任, 朝倉會計主任, 糸川編輯主任

午後 3 時辰馬會長の挨拶により開會せるも時恰も日滿支經濟懇談會に列席のため來朝中の中華民國臨時政府建設總署長殷同氏を東京會館に招待し歡迎茶話會を催すこととなりたるを以て出席全員之に臨席午後 6 時再開下記の事項を議題とし, 協議することとせり。

1. 土木學會振興に關する件
2. 支部交付金に關する件

會議に先立ち關西支部長外より昭和 13 年度事業計畫及實施概要の報告あり, 次で學會振興に關し各支部の希望事項内容に就き説明し検討せり。

西部支部希望事項

1. 經費に關する件
2. 事業に關する件

中部支部希望事項

1. 土木學會名簿に關する件
2. 特別員に關する件

東北支部希望事項

1. 支部に委員會設置の件
2. 入會金廢止に關する件
3. 會誌内容に關する件

午後 7 時休憩晚餐後三度開會支部交付金に關し次年度よりの交附額 (今日迄の暫定方法を更め) の基本を

「會員の數に依るか」收入會費（調定額）に依るか」に就き各支部長の意見を徴した結果調定額に依るを可とすることに全會一致したるを以て次の如き本會の大體方針を説明せり。

1. 舊會員（准員、學生員を含む支部設立前の者）調定額の1割
2. 新會員（同上、支部設立後入會の者）調定額の3割を基本とすること

而して本會議に於て決定又は申合せたる事項次の如し。

1. 支部長會議を毎年1回（時期は會長に一任）開催すること。
2. 各支部管内の學生員が准員に転格する場合は在学中に手続を完了する様勧誘すること。
3. 支部管内の特別員會費交附額は支部設立以前又は交附規定制定以前の入會者の分に對しても交附すること。
4. 土木學會誌の廣告を多くするため各支部に於ても努力すること。

日本工學會記事

○昭和13年11月14日、日本工業俱樂部に於て評議員會を開催し一般會務を報告し、次で下記事項を協議せり。

1. 名譽員推薦に關する件
2. 職員歳末手當支給に關する件
3. 第4回工學會大會開催に關する件
4. メートル法委員會より申出の滿洲國度量衡併用問題に關する件

○昭和13年11月14日、日本工業俱樂部に於て社員臨時總會を開催し下記事項を決議せり。

1. 本會前理事長眞野文二君を名譽員に推薦することとす。

その他記事

○昭和13年12月1日土木學會誌第卷24第12號を發行成規の手続を了し、全會員に配布せり。

入會及転格會員

會員（入會）

秋山千代治君 土木建築請負業自營
 伊藤光男君 鐵道省下關改良事務所
 上野省二君 内務省洞海湾改修事務所
 太田民夫君 名古屋市土木部工務課
 加賀美清丸君 長野縣伊那土木出張所
 加藤輝忠君 東邦瓦斯會社建設課
 加藤彌太郎君 都市計畫百川地方委員會
 小林茂君 都市計畫長野地方委員會
 小林仁兵衛君 日本ソリデテット會社
 小林三喜治君 株式會社大林組
 五味重男君 小倉市役所
 近藤喜次郎君 岡崎市役所土木課

佐々木喬樹君 鐵道省下關改良事務所
 柴田俊昌君 土木鑛山業自營
 白石不二生君 門市市役所港灣課
 杉本一君 温泉電氣會社
 園田齋君 名古屋市役所土木部工務課
 高倉源太郎君 長野縣飯坂土木出張所
 竹田賢秀君 雨龍電力會社
 種田實君 “
 近坂百一君 三重高等農林學校
 富永和男君 八幡市役所土木課
 西脇利夫君 愛知縣鹽土部港灣課

芳賀公介君 大同電力會社
 前田國弘君 三井三池製作所
 松下修君 名古屋市役所土木部工務課
 松永文次君 福岡縣前原土木管區事務所
 松山諭君 實業
 水野太賀君 名古屋市土木部土地區劃整理事務所
 八木茂彌君 福井縣鹽土木課
 山岡登一君 鐵道省下關改良事務所
 山口照君 長野縣鹽土木部
 山中逞一君 岐阜市役所水道課
 吉尾角藏君 内務省下關土木出張所

准員（入會）

安藤又十郎君 八幡市役所土木課
 青井英治君 名古屋市土木部工務課
 青木敏雄君 各級福井保線區
 朝倉隆君 名鉄工務部工務課
 有園武夫君 福岡縣鹽土木部
 有吉寛君 “

井上長四郎君 雨龍電力會社
 伊地知武盛君 朝鮮總督府内務局土木課
 伊藤純三君 愛知縣鹽土木部
 生野俊男君 鐵道省下關改良事務所
 池田芳信君 太陽會社會社大良鐵業所
 石橋利君 内務省洞海湾改修事務所

磯部三次郎君 名鉄小浜保線區
 板垣貞吉男 長野縣鹽土木部
 宇佐美芳郎君 名古屋市土木部工務課
 上田義雄君 名鉄工務部
 上原眞一君 長野縣鹽土木部道路課
 内田保君 岐阜縣鹽土木課

梅内民雄君 内務省筑後川改修事務所
 江田福次君 内務省川内川改修事務所
 榎並鋼三君 名古屋土木部工務課
 小川豊一君 三河鐵道會社技術部
 小倉兼友君 株式会社門組
 小野喜久男君 岐阜縣母斐土木出張所
 小野秀彦君 奉天市公署水道科
 織田利三郎君 名鉄工務部保線課
 大香宗一君 長野縣土木部河川課
 大倉一平君 名古屋水道局下水課
 大住唯雄君 鐵道省下關改良事務所
 太田政之助君 敦賀保線事務所
 岡本末義君 内務省川内川改修事務所
 落合直人君 朝鮮總督府内務局土木課
 加來源太郎君 内務省洞海湾改修事務所
 加藤明弘君 名鉄大垣保線區
 加藤健君 名鉄淺松保線區
 加藤正君 内務省洞海湾改修事務所
 加藤昇君 名古屋土木部工務課
 皆藤佐壽君 岐阜縣宮川改修事務所
 海沼秋雄君 長野縣土木部道路課
 門川貞次郎君 名古屋土木部工務課
 金岡良一君 内務省博多港修築事務所
 神成久夫君 金澤保線事務所
 龜井知一君 名鉄工務部改良課
 川島三郎君 山口縣土木課
 鬼頭博君 名古屋土木部工務課
 北川典生君 内務省下關港修築事務所
 九木田秋君 八幡市土木課
 栗原四四夫君 愛知縣岡崎土木工區事務所
 黒川岩夫君 宮崎縣土木課
 小池福松君 名古屋水道局廣瀬課
 小島喜久男君 石川縣土木課
 小島政雄君 内務省川内川改修事務所
 小林一男君 名古屋土木部工務課
 小林芳郎君 内務省下關土木出張所
 小松四郎君 内務省洞海湾改修事務所
 後藤徳次郎君 内務省下關港修築事務所
 高内鐵雄君 長野縣土木部道路課
 近藤清君 靜岡保線事務所
 近藤正明君 福井保線區
 佐久間龍男君 石川縣土木課
 佐藤市三君 石川島造船所

澤原良君 八幡市土木課
 志知三郎君 敦賀保線事務所
 清水欽造君 内務省洞海湾改修事務所
 篠崎冬茂君 敦賀保線事務所
 澁谷直次郎君 内務省宇部港修築事務所
 島岡芳雄君 滿鉄大連電氣區
 白木源藏君 小倉市土木課
 杉本義明君 名鉄高山保線區
 杉山陽造君 長野縣土木部道路課
 椛本吉郎君 内務省洞海湾改修事務所
 田中健君 門市町水道擴張部工務課
 田中七三郎君 株式会社大林組
 田邊關雄君 長野縣伊那土木出張所
 高田光次郎君 名古屋水道局
 高橋光藏君 長野縣高瀬川改良事務所
 高橋作太君 内務省下關土木出張所
 高橋保夫君 靜岡保線事務所
 高橋善雄君 愛知縣一宮土木工區事務所
 瀧口定一君 長野縣土木部道路課
 谷舜君 名鉄工務部保線課
 谷川嚴君 鐵道省下關改良事務所
 塚本徳藏君 豐橋保線區岡崎線路分區
 辻義雄君 金澤保線事務所
 出森左一君 日本拓業會社庄川建設所
 道地二應君 吳海軍建築部
 中茂樹君 長野縣高瀬川改良事務所
 中園進君 内務省筑後川改修事務所
 中田敏春君 内務省宇部港修築事務所
 中山宗一君 名古屋土木部工務課
 中山三千三君 福岡土木課
 並木道利君 石川縣土木課
 成尾武二君 山口縣土木課
 丹羽厚君 名古屋保線事務所金山保線區
 野口兼吉君 名古屋土木部工務課
 野村太郎君 吳海軍建築部
 野村弘君 名古屋土木部工務課
 長谷川昇二君 靜岡保線事務所
 長谷川崇守君 關西急行電鐵會社
 早瀬兼彦君 名古屋水道局下水課
 林確君 長野縣土木部河川課
 范姜新平君 名古屋土木部工務課
 廣田九州太郎君 内務省洞海湾改修事務所
 福岡逸郎君 名鉄工務部保線課

福島正君 兩電電力會社
 藤本作重君 日本拓業會社庄川建設所
 藤好良盛君 内務省洞海湾改修事務所
 星野輝二君 長野縣伊那土木出張所
 堀場鏡一君 名鉄工務部保線
 松尾安君 内務省下關土木出張所
 松田梅吉君 岐阜縣高山土木出張所
 松田定君 三井礦山會社山野鐵業所
 松田庄次君 長野縣土木部道路課
 松田正太郎君 長野縣伊那土木出張所
 丸山貞夫君 宮崎縣油津港修築事務所
 三橋芳一君 長野縣大町土木出張所
 三村利政君 長野縣樽川改良事務所
 三宅誠君 關東軍經理部工務科
 水島太郎君 名鉄工務部改良課
 宮崎治市君 日本拓業會社庄川建設所
 宮田雄三君 長野縣屋代土木出張所
 六鹿一君 名古屋保線事務所工事係
 村上武夫君 愛知縣土木部港灣課
 木谷潔君 長野縣ノ井土木出張所
 八木鐵治君 名古屋土木部工務課
 八十島元治君 長野縣大町土木出張所
 矢田滿夫君 内務省筑後川改修事務所
 矢野義男君 宮崎縣都城土木出張所
 山口貞治君 内務省川内川改修事務所
 山崎四郎君 長野縣辰坂土木出張所
 山田喜作君 名鉄豊橋保線區
 湯川眞人君 岐阜縣母斐土木出張所
 湯谷外喜男君 名鉄敦賀保線區
 依田昌信君 内務省下關港修築事務所
 吉井信次君 金澤保線事務所
 吉野一紀君 内務省筑後川改修事務所
 芳住喜平君 内務省門市港修築事務所
 和田一三君 靜岡保線事務所
 渡邊清則君 名古屋水道局給水課
 鹿又興逸君 滿洲交通部通達給水調査事務所
 越野榮達君 長野縣飯田土木出張所
 鹽澤次郎君 長野縣土木部
 田中善二郎君 長野縣飯田土木出張所
 竹花友司君
 遠山忠雄君
 林正二君 長野縣土木部
 渡邊次郎君 長野縣飯田土木出張所

学 生 員 (入 會)

淺見重夫君 東京帝大
 伊藤典雄君 神戸高工
 石野叙君 "
 岩見義男君 "
 遠藤滿春君 "
 王貴徳君 哈爾濱工業大學
 王紹孚君 "
 大關孝一君 金澤高工
 大野郁君 神戸高工
 沖重雄君 金澤高工
 沖津健一君 "
 加藤行雄君 名古屋高工夜学
 何寶章君 哈爾濱工業大學
 金澤武君 神戸高工
 川井武朗君 名古屋高工
 川西早苗君 神戸高工
 川村正明君 金澤高工選科
 河野英雄君 金澤高工
 河野通之君 東京帝大
 久徳茂雄君 京都帝大
 金匡九君 哈爾濱工業大學
 久木田實君 名古屋高工夜学
 黒住仁君 神戸高工
 小淵達雄君 "

高鍾文君 哈爾濱工業大學
 紺藤明君 神戸高工
 齋藤迪孝君 東京帝大
 重兼昶夫君 "
 饒村吉宣君 金澤高工
 趙國政君 哈爾濱工業大學
 田中浩君 神戸高工
 田原朔郎君 金澤高工
 高木光夫君 名古屋高工夜学
 高木芳郎君 徳島高工
 高田八郎君 金澤高工
 武内良吉君 神戸高工
 寺田孝一君 金澤高工
 時岡良男君 "
 富増太二君 神戸高工
 浪花専長君 東京帝大
 仁尾博君 神戸高工
 野崎次作君 金澤高工
 野津手重秋君 "
 長谷川博君 東京帝大
 篁智勇君 九州帝大
 濱田正巳君 神戸高工
 林保君 "
 日垣和雄君 金澤高工

樋渡重徳君 神戸高工
 福谷良男君 "
 藤枝雅生君 "
 朴琦澤君 "
 前川治君 "
 松本正友君 "
 三谷彌之助君 金澤高工
 三宅憲吉君 "
 味野俊三君 "
 溝淵健次郎君 神戸高工
 水島勝治君 仙臺高工
 蜂義隆君 神戸高工
 向井壽雄君 "
 村上横夫君 名古屋高工
 村瀬章君 神戸高工
 山田五郎君 名古屋高工夜学
 山本吾良君 神戸高工
 楊興斌君 哈爾濱工業大學
 吉田良三君 東京帝大
 米井定義君 金澤高工
 鏝坂角朗君 神戸高工
 羅鴻年君 哈爾濱工業大學
 割澤善雄君 金澤高工
 澤田繁雄君 "

會 員 (転 格)

伊藤健雄君 名鉄工務部工事課
 石井譲君 長野縣廳土木部
 倉山俊一君 長野縣廳土木部道路課
 佐崎稔君 臺灣高雄築港出張所
 數枝木寛君 滿鉄哈爾濱工務區

辻口利雄君 滿洲交通部海拉爾建設工務所
 友永和夫君 名鉄工務部改良課
 内藤利貞君 滿洲大陸科学院
 中島利彦君 滿鉄調査部
 永田泰君 内務省東京土木出張所

堀内澤郎君 滿鉄新京支社
 増野政雄君
 三宅静太郎君 長野縣廳土木部
 山尾茂夫君 株式會社間組

准 員 (転 格)

鈴木定雄君
 多田英親君 門鐵工務部改良課

吉田榮延君 東北振興電力會社

吉野次郎君 石原産業海運會社

土 木 学 會 々 員 數

會 員	准 員	学 生 員	特 別 員	賛 助 員	會 計
3197	3671	1073	77	21	8039

會 員 伊藤 茂君の訃報に接す、本會は恭しく哀悼の意を表す。

准 員 緒方固夫君の訃報に接す、本會は恭しく哀悼の意を表す。

名譽の支那事変戦死會員



故寺田 功君

明治 41 年 1 月 31 日生

札幌市北十九條西一丁目

昭和 5 年 3 月北海道帝國大学附屬土木
専門部卒業

北海道廳土木技手

昭和 13 年 5 月 16 日 山西省候馬鎮に
於て戦死



故山本 博君

明治 39 年 3 月 21 日生

京都府夫田郡下夜久野村井田七五六

昭和 9 年 3 月東京帝國大学工学部土木
工学科卒業

新潟電力株式会社勤務

昭和 12 年 10 月 6 日 河北省武強縣
鄧莊附近に於て戦死



故北村英次郎君

明治 39 年 8 月 30 日生

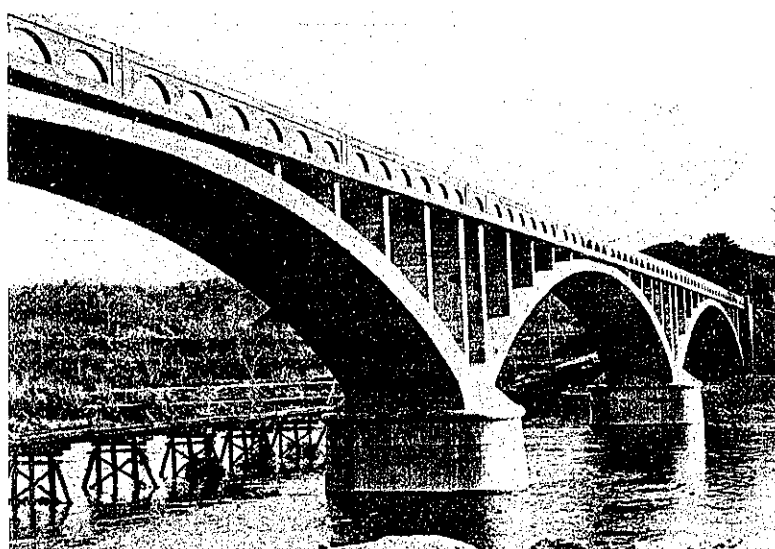
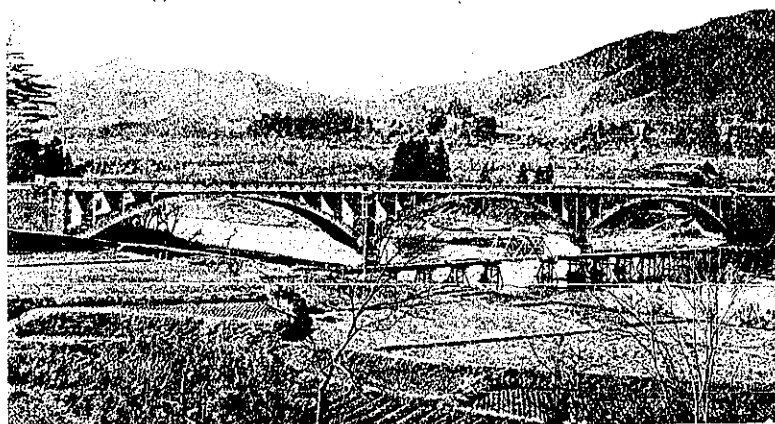
大阪市西淀川區姫島町二五六

大正 14 年 8 月 日本大学高等工学校土
木科卒業

臺灣電力株式会社技手

竣功せるハツ矢橋(岩手縣)

(上は右岸下流側より、下は左岸上流側より見たる全景)



位 置： 岩手縣二戸郡金田一村地内馬淵川

路 線 名： 府縣道盛岡久慈線

橋 長： 112 m 有效幅： 4.7 m

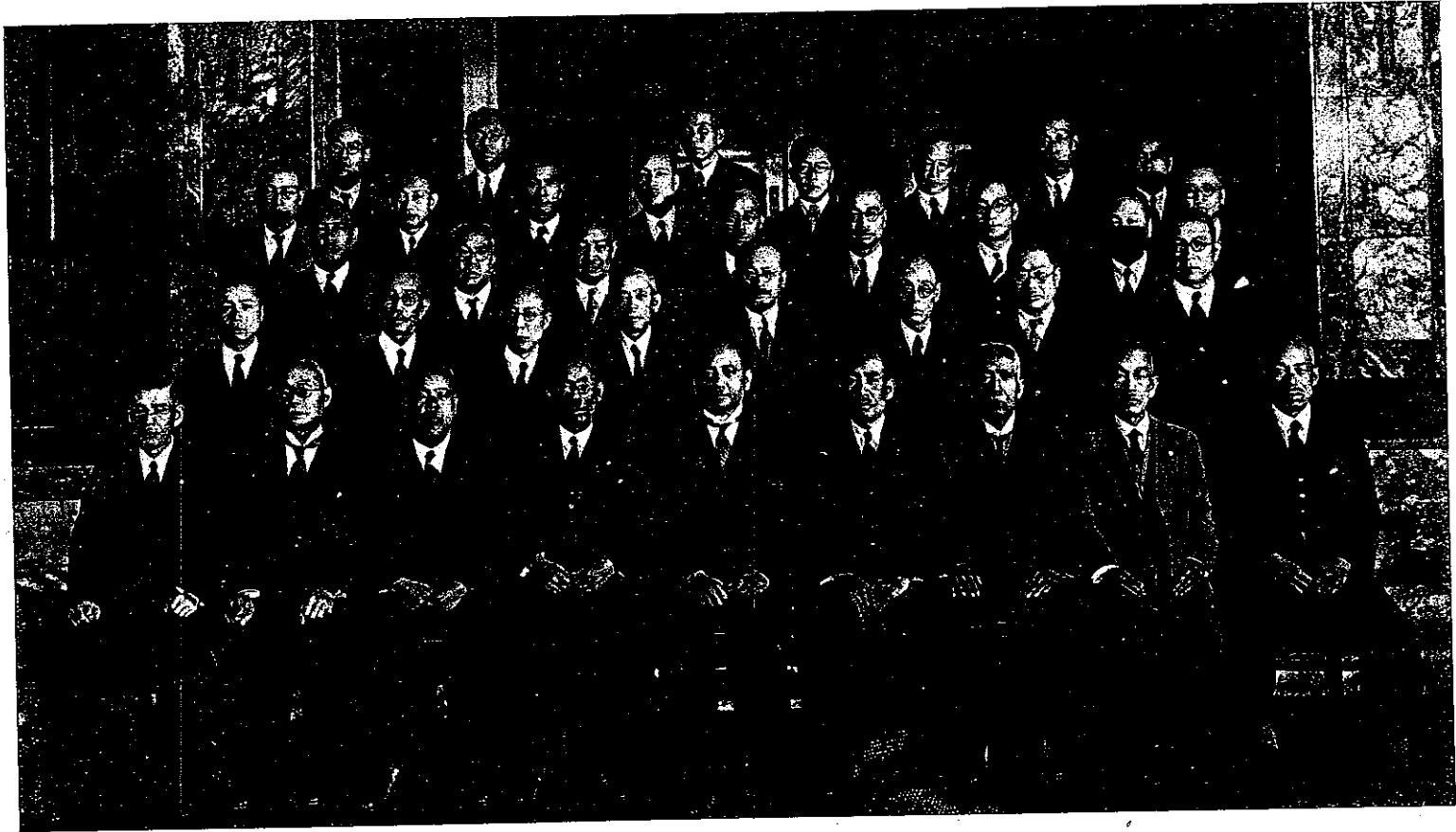
構造概要： 鉄筋コンクリート無鉸拱橋 (1 径間 36.0 m, 拱矢 5.4 m, 拱肋幅 4.5 m, 拱肋厚 0.55 m 及 1.10 m)

取付道路： 延長 916.0 m 幅員： 5.5 m 工費 60 500 円

工事施行方法： 岩手縣直營 東北振興土木事業

工事着手 昭. 12. 7. 12. 竣功 昭. 13. 11. 8.

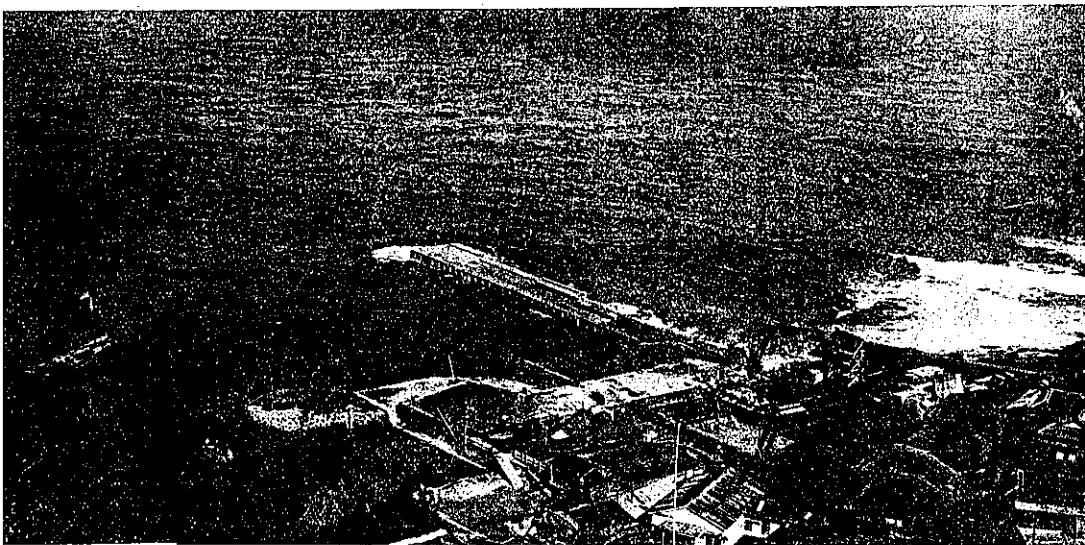
中華民國臨時政府建設總署長殷同氏歡迎茶話會



最前列中央が殷河氏（會務報告欄參照）

横濱・大島間ケーソン曳航

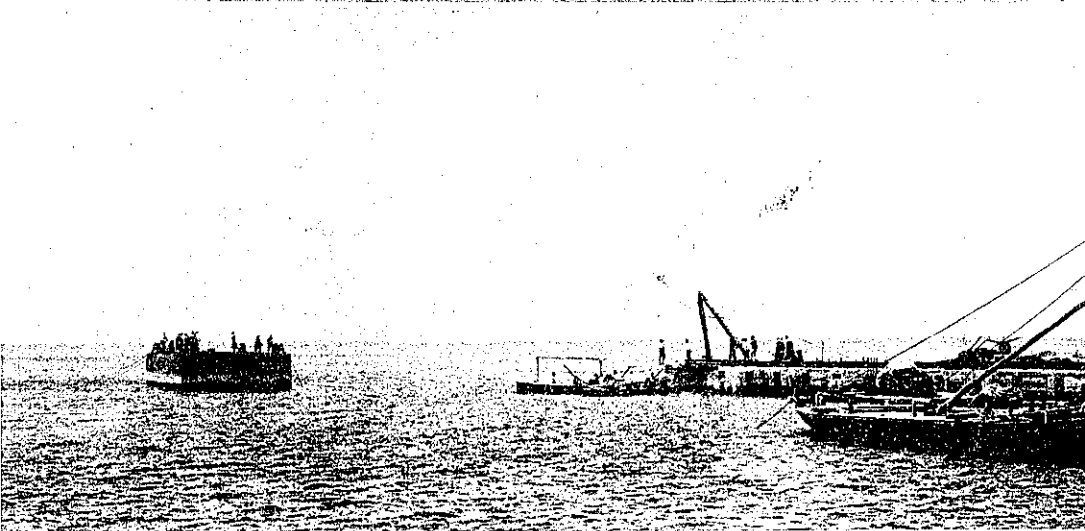
(時報欄参照)



岡田港全景



曳航を終りたる
ケーソン

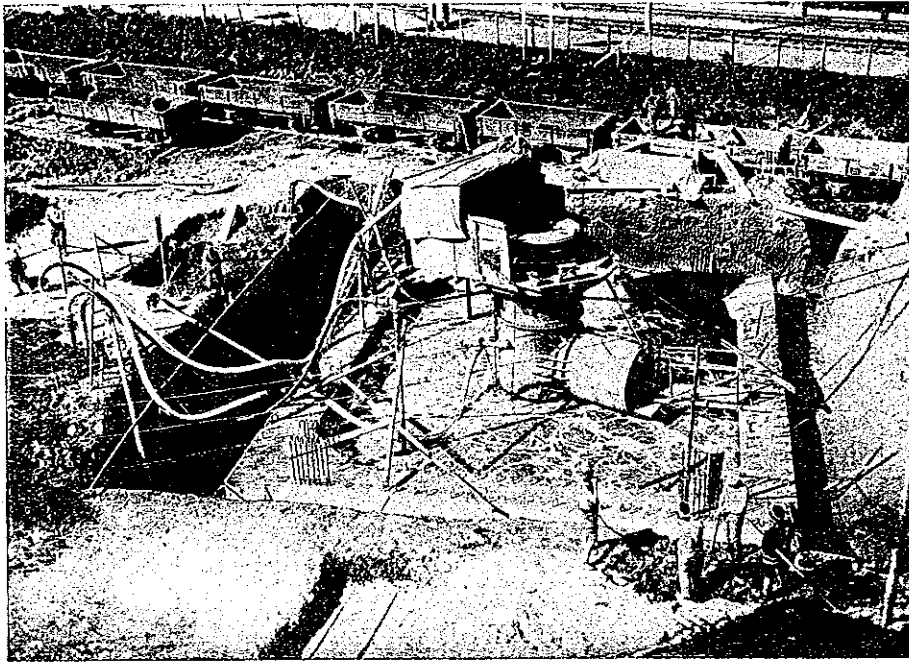


ケーソン引寄
作業

國有鐵道關門隧道工事狀況

下図は潜函工法により沈下終れる門司側堅坑、この堅坑底部に於てシールドを組立てる。

右図は試掘坑道先端セメント注入用隔壁，図に見る湧水は約1個にして海水なり。

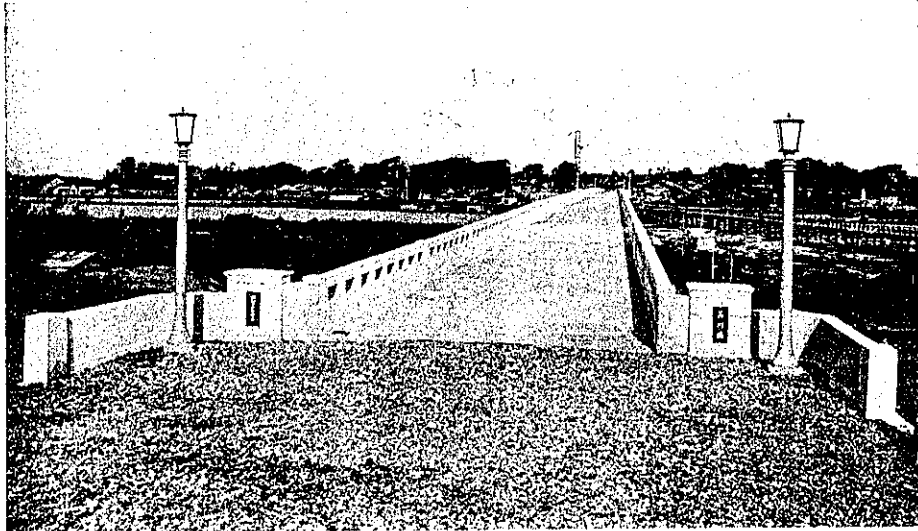


（下）門司側堅坑

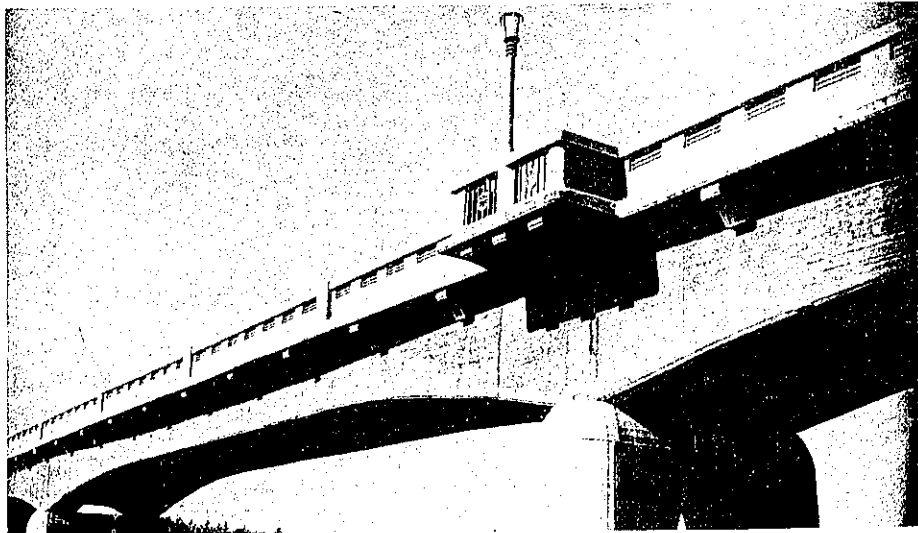


美川橋改築工事(石川縣)

正面圖



側面圖



位置：府縣道小松美川線中石川郡美川町地内，架設河川：手取川
橋梁延長：392.7 m 有効幅員：4.5 m
構造：橋臺：橋脚式鉄筋コンクリート造2基，橋脚：井筒基礎鉄筋コンクリート造13基，橋体：ゲルバー式鉄筋コンクリートT型桁2通 16.0m...2径間 30.0m...12径間，高欄：鉄筋コンクリート人造花崗石洗出し鑄鉄飾枠嵌込，親柱：花崗石張付コンクリート造，休息所：橋梁途中4箇所，照明柱：親柱前脇1基宛4箇所，休息所1基宛4箇所，橋面配合1:2:4コンクリート
使用材料：鉄筋339.5t，セメント37321袋，砂利3564m³，砂1982m³
使用延人員：18300人，工期：起工昭和11年6月19日，竣工昭和13年11月10日
工費：161000円，施工：大阪市 高田商事株式会社